

平成29年度 綾瀬市立春日台中学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	学校経営の方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・すすんで学ぶ人</li> <li>・精神と身体の健康な人</li> <li>・責任を重んじる人</li> <li>・心豊かであたたかい人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)校内研究の推進</li> <li>(2)特別活動や部活動の活性化</li> <li>(3)生徒の教育的ニーズの把握とその支援体制の充実</li> <li>(4)学校組織の協働態勢作り</li> </ul>	
今年度の重点目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)学習する習慣を身につけさせる</li> <li>(2)自他ともに大切にすることを育てる</li> </ul>		
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「すすんで学ぶ人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	学習意欲についての前向きな評価が多く、ほとんどの生徒は授業に対して意欲的に取り組んでいます。「すすんで学ぶ人」を育成するには、学習内容の基礎基本を十分理解させることが大切であると考え、いかに定着させるかを課題に授業改善に取り組みました。今後も、学習指導方法や教材等を工夫して、わかる授業を目指すとともに、家庭と連携して家庭学習の習慣化と家庭学習の重要性について指導していきます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	多くの生徒が、学校行事や生徒会活動・部活動などに積極的に参加しています。今後も、これらの活動を活性化させ、一人ひとりが校内での自分の役割を意識し多くの生徒が達成感や充実感を味わえるように努めていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「心豊かで、あたたかい人」を育てる指導を積極的に行っている。	友人との良好な人間関係作りを意識している生徒が非常に多いことがわかりました。教職員においては良好な関係作りを意識し努力している人が100%という結果でした。今後もよりよい人間関係作りのための取組を行い、「心豊かであたたかい人」を育てる指導に努めます。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	「学校生活に満足している」生徒は9割と非常に多くの生徒が満足している様子が見られました。今後は、「学級集団アセスメント」で不満足群にいる生徒への見守りや、要支援群にいる生徒に面談を実施し、学年、学校全体でよりよい集団作りのために取り組んでいきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	「スクールアンケート」や教育相談、「学級集団アセスメント」の結果を教職員が共有し、いじめの早期発見・再発防止に努めました。また、「居心地の良いクラスをつくろう ～わたしたちがすること 9の約束」を教室に掲示し、いじめ防止の指導に役立てています。今後も、保護者や学校通信などを利用し、学校での取組を保護者に伝えていきます。
6 保健管理	学校は、「精神と身体の健康な人」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	今年度は、8割に迫る生徒が自分自身の健康や体力に、気をつけるという回答しています。今後も継続して、定期健康診断や新体カテストの結果を活用するとともに、生徒の心身の健康・安全の確保に努めていきます。併せて、日々のけがや体調不良、心の健康にも留意し、学級担任や養護教諭やスクールカウンセラーが保護者との連携のもと、適切な対応を心掛けていきます。

7	安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設設備の点検・整備に取り組んでいる。	今年度も、生徒が安心できる学校生活保全のため、校内施設・設備の点検を学期ごとに行い、必要な箇所への修理・改善を行ってきました。また、PTA校外活動委員会と連携し、通学路に関する情報をいただき、安全指導に役立てました。 今後もPTAや諸機関との連携を深め、通学路や校内施設・設備の保守安全に心掛けます。また、不審者情報については警察とも連携し、迅速に対応していきます。
8	支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	生徒の困り感を聞いて、一人ひとりに合った支援を探り、授業・学級経営の改善、教室内学習支援、個別支援、スクールカウンセラー他、諸機関との連携など、全教員で取り組み、成果をあげました。 今後も、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の取組を継続しつつ、集団に適応できるよう指導していきます。
9	組織運営	校長を中心とした運営になっている。	本校では、『思考力・判断力・表現力の育成』をテーマに、外部講師の指導のもと、全教員が校内研究に取り組み、公開授業を行ない、思考力、判断力、表現力の育成をするための指導と評価の工夫に努めています。長期休業中の研修へも積極的に参加をし、見識を深めるよう努めています。また、教員対象の生徒理解研修、生徒と共に意識を高めるための防災・減災講演会、人権福祉講演会を企画しています。
10	教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	校内研究のサブテーマである「思考力・判断力・表現力の育成をするための指導と評価の工夫」の達成にむけ、外部講師の指導を受けながら積極的に授業研究をし改善に取り組み、言語活動の効果を検証し、授業力の向上に努めました。また、多くの研修、講演会を企画、実施することで教職員の意識向上に努めました。 今後もさらに様々な研修を企画、実施し、見識を深められるよう努めていきます。
11	教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	「学校教育目標」や「指導の重点」で示した生徒像を目指して教育活動を行いました。 今後も日常の授業だけでなく、道徳、学級活動等における生徒活動を3年間を見通しながら計画的に、また継続的に行うことでよりよい人間関係の形成を積極的に図っていきます。
12	情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	今年度も諸たよりを通して、学校から保護者へ積極的に情報発信を行いました。また、PTAの諸活動や地域の行事に文化部が参加・協力するなど、保護者・地域との連携も図ってきました。保護者からの参加・協力も大いに得られ、良い関係を築くことができています。 今後も学校行事やPTA行事への積極的な参加を呼びかけ、引き続き保護者・地域との連携に努めていきます。

**【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】**

- ・多くの生徒が、授業だけでなく学校行事や部活動にも意欲的に参加できていることは評価に値する。このことによって、特に今年度教師陣が一丸となって、思考力、判断力、表現力をいかに育むかに取り組み、また生徒もいかにすすんで学び、充実した学校生活を送ろうとしたかが十分理解できた。
- ・一見生徒と教師の関係が良好に思われるが、教師には決して余裕があるわけではない。不登校生徒の別室での支援、教室内の学習支援にはかなりの教職員の配置が必要のほずである。人手が足りない場合は、教師が空き時間を削って支援している現状を知ってもらうべきである。
- ・生徒は一見穏やかに生活しているようだが、個々には重い悩みを抱えている生徒もいる。教師の本来の仕事はできるだけ多くの時間、生徒と関わることである。教師が十分その時間をとれるよう支援の教師の数を増やしてもらうべきではないか。
- ・スクールカウンセラーの週1回だけの滞在では足りない。常時学校にいれば、スペシャリストによる早期対応が可能になり、生徒が安心して学校生活を送れるようになるはず。是非常駐させるよう検討してもらってほしい。
- ・保護者の、学校のいじめ防止対策について評価が低いという結果については、昨年度同様、学校側のスクールアンケートや教育相談を実施していることが十分伝わっていないこと、保護者側の授業参観や保護者会の出席率から見られる学校教育への関心の薄さが原因していると考えられる。学校として、授業参観や公開授業週間、学校だよりや学年だよりなどの機会に今後も引き続き発信していく必要がある。
- ・情報がわかりやすく伝わっているかについての保護者の評価が低いのは、学校からの便りなどが着実に届いていないことも原因ではないか。例えば、メールで一斉送信して、その上で紙面での配付という方法をとるなどの対策が必要である。